

船舶事故調査報告書

令和4年9月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	令和4年4月5日 00時51分ごろ
発生場所	山口県柳井市平郡島北方沖 下荷内島灯台から真方位126° 1.47海里付近 (概位 北緯33° 50.0′ 東経132° 12.4′)
事故の概要	貨物船わかちどりは、西進中、また、引船はやふじは、起重機船井長号と引船列を構成して西進中、わかちどりと井長号が衝突した。
事故調査の経過	令和4年4月18日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 貨物船 わかちどり、499トン 143158、若葉汽船株式会社（A社） B 引船 はやふじ、19トン 139-18広島、有限会社なみふじ C 起重機船 井長号、総トン数不詳（長さ45m） なし、株式会社井長組
乗組員等に関する情報	A 船長A、三級（航海） 航海士A、四級（航海） B 船長B、一級小型・特殊・特定 甲板員B、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 右舷船首部に擦過傷 B なし C 左舷船尾部の左舷灯支柱及び手摺りに曲損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	A船は、船長A及び航海士Aほか3人が乗り組み、法定灯火を表示し、航海士Aが単独で船橋当直に当たり、平郡島北方沖を約12ノット（kn）の速力（対地速力、以下同じ。）で自動操舵により西進した。 航海士Aは、周囲に航行の支障となる他船を見掛けず、椅子に腰を掛けた楽な姿勢で見張りを続けていたところ、眠気を催して居眠りに陥り、船首方を航行するB船がC船をえい航した引船列（以下「B船引船列」という。）に接近していることに気付かずそのまま航行し、A船の右舷船首部とC船の左舷船尾部とが衝突した。 A船の船橋航海当直警報装置（以下「本件装置」という。）は、人感センサーの休止時間を12分に設定しており、航海士Aの居眠りは

	<p>設定時間内だったので作動しなかった。</p> <p>B船引船列は、船長B及び甲板員Bほか1人が乗り組み、法定灯火を表示し、甲板員Bが単独の船橋当直に当たり、平郡島北方沖を約6knの速力で自動操舵により西進した。</p> <p>B船引船列は、甲板員Bが、A船を船尾方に認めたが、追越し船であるA船が、B船引船列の左舷方を通過してくれるものと思い、B船引船列の右舷方を航行中の他船に意識を向けて同じ針路及び速力で航行中、A船の接近に気付かず、A船と衝突した。</p>
<p><b>分析</b></p>	<p>A船は、自動操舵で西進中、航海士Aが、居眠りに陥り、C船に向かって航行を続けたことから、C船に接近していることに気付かず、C船と衝突したものと考えられる。</p> <p>航海士Aは、周囲に航行の支障となる他船を見掛けず、椅子に腰を掛けた楽な姿勢で見張りを続けていたことから、覚醒水準が低下し、居眠りに陥ったものと考えられる。</p> <p>本件装置は、人感センサーの休止時間を12分に設定しており、航海士Aの居眠りは設定時間内だったことから、作動しなかったものと考えられる。</p> <p>B船引船列は、西進中、甲板員Bが、A船を船尾方に認めたが、追越し船であるA船が、B船引船列の左舷方を通過してくれるものと思い、B船引船列の右舷方を航行中の他船に意識を向けて同じ針路及び速力で航行を続けたことから、A船の接近に気付かず、A船と衝突したものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、A船が西進中、B船引船列が西進中、航海士Aが、居眠りに陥り、自動操舵でC船に向かって航行を続け、また、甲板員Bが、追越し船であるA船が、B船引船列の左舷方を通過してくれるものと思い、右舷方を航行中の他船に意識を向けて航行を続けたため、互いに接近していることに気付かず、A船とC船とが衝突したものと考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>A社は、本事故後、次の再発防止策を講じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本件装置の休止時間を6分とした。</li> </ul> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独の船橋当直者は、当直中に眠気を感じた場合、椅子から立ち上がって身体を動かすなど、居眠り運航を防止する措置を採ること。</li> <li>・船橋航海当直警報装置は、航行する海域に応じて、休止時間をできるだけ短く設定すること。</li> <li>・船橋当直者は、追越し船を含む他船の動向に注意を向け、レーダーなども活用して、継続した見張りを行うこと。</li> </ul>